

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	20	学校名	池田高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	～生徒一人一人を大切に、E S D (持続可能な開発のための教育) を推進するユネスコスクール～ 校訓「向学・友愛・練磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に貢献できる人間の育成に努める。		
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>池高で身に付けた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒</li> <li>池高で伸ばした個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒</li> <li>池高で育んだユネスコスクール等の理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒</li> </ul>	
	生徒をどう育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく、探究的な授業の実施</li> <li>授業や課外活動で培った知識・スキルを活かし、主体的で協働的な探究活動を通じて、自身のキャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」の実施</li> <li>ユネスコスクールとしてE S D、S D G sを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動の実施</li> </ul>	
	どんな生徒を待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒</li> <li>自身をしっかりと見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒</li> <li>ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒</li> </ul>	
学校の抱える課題	職員一人一人にかかる業務量の多さ 単位制への完全移行に伴う効果的な運用 「総合的な探究の時間」を軸とした教科横断的な探究的学習活動の活性化 学習意欲の喚起と学力の向上及び生徒の多様な進路希望を支援するキャリア教育の充実 自ら自己指導能力や規範意識を高め、安心安全な学習環境を整えることができる生徒の育成		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	保護者や地域の期待に応える魅力ある学校づくりを推進するとともに、働きやすい職場づくりに努める。	
	学習指導	総合的な探究の時間において、地域課題を自分事としてとらえ、主体的・協働的に取り組むことで身に付けた資質や自信を自らのキャリア形成に生かしたり、積極的に地域社会に参画しようとする姿勢を養う。 全職員によるカリキュラムマネジメントにより、探究的な学びに必要な資質を教科横断的に身に付け、生徒自らが新しい地域社会を生き抜く力を育成する。	
	進路指導	学年ごとに積み上げる確かなキャリア教育を通して一人一人が将来に対する明確な目標を設定して、学習意欲の喚起と学力の向上に努め、生徒の多様な進路希望を支援する。	
	生徒指導	生徒一人ひとりの健全な成長を促し、生徒自らが現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成	

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	生徒が充実感をもって安心安全な学校生活を送ることができるとともに、身につけた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒を育成する支援体制の整備	1	施策Ⅰ-1
	地域や外部教育機関等と連携し、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒の育成	4	施策Ⅰ-4
	出退勤管理システムや各種制度も利用しながら勤務時間管理に努め、無理のない働き方を促進する。	27	施策Ⅳ-27
	ハラスメントのない風通しの良い職場環境作りのための職員研修や意見聴取	28	施策Ⅳ-28
学習指導	職員研修を通して効果的な学習と生徒の能力の育成を実現する体制を整備し、基礎学力の底上げを図る。	26	施策Ⅳ-26
	自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動を全科目で取り入れ、探究的なものの見方、考え方を育む。	8	施策Ⅱ-8
	外部との連携強化等を図り、総合的な探究の時間の活性化を行う。成果を発表することで思考力、発信力を育て進路に結び付けられるようにする。	13	施策Ⅱ-13
進路指導	平常補習・夏季補習、スタディサプリ、外部模試を活用し、確かな学力をつけます。	8	施策Ⅱ-8
	地域・上級学校と連携しながら、組織的・計画的に進路指導を行い、生徒を進路実現に導きます。	13	施策Ⅱ-13
	ICTを活用した効果的な学習支援システム(スタディサプリ)や小論文・志望理由書対策を行う。	9	施策Ⅱ-9
	キャリアパスポートを活用し、生徒自身が自己肯定感を高めることで、様々なことに挑戦させる。	1	施策Ⅰ-1
生徒指導	すべての教育活動を通じて、生徒自らが自己の基本的な生活習慣を確立するために全職員による生活指導を行う。	3	施策Ⅰ-3
	他者を理解し、より良い人間関係を築くために学校内外における奉仕活動や学校行事を行う中で、教職員が生徒一人一人に応じた支援する。	3	施策Ⅰ-3
	生徒自らが考え行動できるようになるために、全教職員があらゆる場面で生徒の気づきや変化を捉え、適切な助言をする。	1	施策Ⅰ-1

### 来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年2月5日

<ul style="list-style-type: none"> <li>総合的な探究の時間に関わる教員全てによる委員会を実施し、探究活動の計画を立てるなどして、誰もが主体的に運営できる組織を目指す。</li> <li>保護者や地域など、外部に本校の探究について積極的に広報を行い、本校の探究的な学びを中心としたカリキュラムについて理解を深めていただくとともに、新たに応援していただける組織や人を増やす。</li> <li>小論文対策を充実させるため学年や教科と連携しながら、計画的にICT教材を使用する。同時に生徒がICT教材を使用する機会を増やすことで、ICTリテラシーの向上を図る。</li> <li>1年次に自分の進路を見つめ、正しくコース選択ができるように指導する。そのために大学側や企業側の話ではなく、ハローワークなどの中立的立場の講話を実施する。</li> <li>探究活動を今まで以上に充実させるために地域連携を強化し地域課題に取り組む。またその活動を地域の大人や保護者に発表する場を作る。</li> <li>教職員間で生徒情報を共有しSCやSSWとの連携を密にしたチームで対応する。</li> <li>「生徒指導だより」「教育相談だより」の発行を増やし、生徒・保護者への継続的な情報発信を行う。</li> </ul>
---

年度末評価(自己評価)														
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D											
				<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活の基本を成す良好な人間関係やコミュニケーション力の育成のため、1年次初期に防災教育も兼ねて野外共同調理等を実施した。また「総合的な探究の時間」等を通じて協働や相互理解、自己表現等の能力・技能や、高校生版ビジネス手帳を導入して自己管理・調整力の育成を図るなど行った。探究的な学びでは、地元自治体や各種教育機関との連携を強化した。</li> <li>管理当番業務の負担軽減や勤務時間の調整、普段の声掛け等を行った。</li> <li>職員研修や意見聴取を実施した。また研修等で得られた意見を全体に還元した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒・保護者等アンケートで、充実した学校生活や熱心な教育活動など関連項目で肯定的評価がいずれも85%以上と高い割合であった。</li> <li>○2年次生対象の調査で、地域理解やその魅力を伝える力があるとする肯定的回答が県平均より高く、また過年度比較においても顕著な上昇が見られるのは、地域と連携した探究的な学びの成果である。</li> <li>○時間外在校時間45時間を超える延べ職員数が昨年度比約4割減となった。</li> <li>▲職員規模に比して業務量が全般的に多く、また負担の分散化に課題がある。</li> </ul>	B							
<ul style="list-style-type: none"> <li>外部講師を招き、個別最適化された深い学びについて理解を深めたり、教育課程委員会が教科横断的な教育課程について研修を行った。その成果もあり、年2回の授業評価では全項目の平均で、授業に対する生徒の満足度が95%を超えた。</li> <li>本格的に池田町・神戸町と連携を図り、生徒の取り組みにフィードバック得るなどして探究を深め、コンテストでも一定の成果を収めた。また、主体的に探究的な学びに向かえたと自己評価した生徒が95%を超えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本校の探究的な学びについての教育計画を作成するなど、総合的な探究の時間を主軸としたカリキュラムについて共通認識をもち全教員で取り組んだ。</li> <li>○生徒一人一人に、主体的に探究的な学びに向かう態度が育成できている。</li> <li>▲企画の立案や運営に関して担当者のリーダーシップへの依存がまだ高い。誰もが積極的に探究的な学びのためのアイデアを出し合える環境を作ることが必要である。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>スタディサプリや到達度テストの活用率を向上させる。</li> <li>コース別ガイダンスを実施して、参加率を上げる。</li> <li>キャリアパスポートを活用し「一年間の振り返り」で肯定的評価80%以上を目指す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○スタディサプリのアクティブ率が昨年よりも向上した。またwebにすることで到達度テスト活用率が向上した。</li> <li>○生徒アンケートにおける進路指導分野の満足度が向上した。</li> <li>▲小論文・志望理由書ナビの導入でICTが不向きな生徒には、教員によるサポートが多く必要であった。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>20日以上欠席者数 R5年度20名(内30日以上欠席者14名) R6年度13名(内30日以上欠席者5名)</li> <li>保健室利用(R5年度515名、R6年度458名)</li> <li>教育相談室利用(R5年度0名、R6年度0名)</li> <li>SC利用状況(R5年度17件、R6年度14件)</li> <li>スペシャルサポート(R5年度1名、R6年度1名)</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「心のアンケート」による【心の不調を感じている】生徒数  <table border="1"> <tr> <td></td> <td>&lt;R5年度&gt;</td> <td>&lt;R6年度&gt;</td> </tr> <tr> <td>第1回(5月)...</td> <td>15名</td> <td>7名</td> </tr> <tr> <td>第2回(9月)...</td> <td>17名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>第3回(11月)...</td> <td>11名</td> <td>9名</td> </tr> </table> </li> <li>○人間関係やメンタル面に支援を要するケースが増加傾向であるが、SCや外部機関との連携で対応を取ってきた。</li> <li>▲生徒情報の共有を図り、組織的に対応するために教育相談コーディネーターを中心とした支援体制を構築していく。</li> </ul>		<R5年度>	<R6年度>	第1回(5月)...		15名	7名	第2回(9月)...	17名	11名	第3回(11月)...	11名
	<R5年度>	<R6年度>												
第1回(5月)...	15名	7名												
第2回(9月)...	17名	11名												
第3回(11月)...	11名	9名												

### 学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

<ul style="list-style-type: none"> <li>探究活動を本当に一生懸命やっており、生徒にも定着しているのは立派だ。一方負担になると続かないと思うので、先生方の負担を軽減することを工夫してほしい。またコース別の授業では探究活動のような形態を教育課程上上げていくのがよいのではないかと思う。</li> <li>学習・進路指導でオンライン学習サービスを活用しているが、生徒が何を勉強すればいいのかわかるようになるのでとても適している。</li> <li>生徒指導の心のアンケート結果から、不調を感じている生徒が減っているのは、自分の居場所があるということを生徒たちがすごく感じているからだと思う。学校がその場所を様々な提供しているのだろう。学習・進路面でもきめ細やかで個に応じた指導がなされていると感じた。</li> <li>池田高校の学校カラーが非常にはっきりと見えてきた。ただ、学校運営協議会に参加したから伝わってくる面もある。地域や一般の方、また生徒たちや中学生たちにもそれが何らかの形で伝わると、池田高校を選択する中学生ももっと増えてくるのではないかと。</li> </ul>
---